第３期ウィズあかし運営委員会

第３回ウィズあかし専門委員会議事録

2024 年 5 月 29 日（水）18：00～20：00

複合型交流拠点ウィズあかし　8 階 803 学習室

参加者：専門委員　6　名　明石コミュニティ創造協会スタッフ　9　名

１．開会のあいさつ

〈事務局〉

本日はお忙しいところ、ウィズあかし専門委員会にお集まりいただきありがとうございます。前回の「男女共同参画」に関するアイデアを受けて、ウィズあかしの運営が改善されていると感じている。今回は３回目になるが、引き続きウィズあかしの各分野・事業のあり方についてご意見やアドバイスをいただきたい。

今年から明石市が共創元年ということで市民とつながり、対話をして、課題に向き合い、産官学民の多様な主体で解決していくことを目指す「対話と共創のまちづくり」が始まっている。ウィズあかしには生涯学習・男女共同参画・市民活動支援があり、まさにその共創を推進しているのではないかと思っている。実際、市のタウンミーティングのファシリテーターや行政計画のワークショップなどの依頼もあり、市民との対話が大事になってきている。

本日は「市民活動支援」について、みなさんからご意見をいただきつつ、ウィズあかしがどう変化していける可能性があるのかなどご意見をいただきたいと思っているので、よろしくお願いしたい。

２．１)本日の趣旨説明

事務局より口頭で第３回ウィズあかし専門委員会の趣旨説明及び配布資料の確認を行った。

２）自己紹介

専門委員６名及び明石コミュニティ創造協会スタッフ９名が自己紹介を行った。

３）前回の振り返り

事務局よりスライドを使用して、第２回ウィズあかし専門委員会の振り返りを行った。

３．報告

事務局より「ウィズあかしの市民活動支援の現状・認識している課題」について、スライドを使用して報告を行った。

４．質疑応答及び意見交換

〈専門委員〉

公益的な活動支援が「ステップアップ」になっていると思うが「ステップアップ」という考え方

が違うのではないか？

また、公益と私益が混ざる状態の方がいいのではないか？明石市における主体的な活動の左と右側（スライド資料６ページ目）があり、公益側の社会福祉協議会やフリースクールなど事業ベースにしている方々と、私益から活動している人が出会うことが大事だと思う。自身の活動が貢献できるという気付きがないと、個人の活動が社会性を帯びるきっかけがうまれないと思う。

あわせて、それぞれの活動をし続けながら、想定している対象以外にも出会えるようなマッチングがポイントではないか？

ウィズあかしの活動が「待ち受け型」とある通り、アウトリーチに関する活動がない。例えば、私益的に活動している人に対して、小学校やフリースクールなど社会包摂的な視点で出ていってみようであったり、アウトリーチしていくための心構えを学べる講座を実施していったりすることが、「待ち受け型の支援」の課題解決や「公益的な活動」につながっていくのではないか？

〈専門委員〉

ステップアップモデルはなるほどと思いながら、公益的な活動ってなんだろう？と思う。もともと市民活動は自分たちのことは自分たちで行う・解決していくみたいなところがある。

全てボランティアでやるのも無理があるし、企業や営利が絡むところとコラボしていかないと広がらないのではないか？ウィズあかしやコミセンを通じて出会う人は、ボランティアや社会福祉協議会・地域活動内で固まっている印象があって、そのネットワークは強いが外に広がっていない。

学校や企業などとつながって活動していく、それがビジネスにつながっていくことがあってもいいのではないか？ボランティアはやりたいけど生活する糧を稼ぐ手段がないと難しいという声もある。営利・私益につながる道を用意することも活動を広げるポイントではないか？

〈専門委員〉

私益は私益でも、自分の楽しい喜びではなく、金銭的な部分の踏まえてということか？

〈専門委員〉

そうだと思う。それがないと活動が継続できないので。

〈専門委員〉

公益的な活動を増やしていきたいのは、まちづくり条例がそうなっているからなのか？共益的な活動をしている人たちは、公益的な活動をしたいと思っているわけではないけど、そうさせていきたいのか？それとも、公益的な活動をしたいけど、今は共益的な活動に留まっているという声を聞いて提案しているのか？どんなことを公益的な活動で支援していきたいのか、今何を考えているのかを聞きたい。仕様上そうなっているか分からないが、アウトリーチは重要だと思う。

〈職員〉

決して、条例で定められているからではない。共益的な活動を公益にと積極的にけしかけるのではなく、その方の活動フィールド以外にも活動できる余白があるのではないかと考えている。社会と出会う・まちにつないでいくというのは、その方がやりたいのであればつないでいくのが前提だと思う。これまで市民活動支援における戦略は、法人として持ち得てなかった。「待ち受け型」とあるように、交流する・つながるというところに胡坐をかいてしまっていたこともあり、何をしていくのが良いか分からなかった。日々、団体から SNS で悩んでいるなどの相談を受け対応すること

が、活動支援だと捉えがちになっていたことは指定管理１期目の反省としてある。

一方、COMiSO としては、まちづくり活動・地域自治組織の支援もしていて「団体をつないでほしい」といった声もあり対応しているが、組織として縦割りになっているところがある。つないでいくことで「こんないい状態が起こるよね」の共通認識がスタッフ内で持ちきれていないことが原因ではないかと考えている。

〈専門委員〉

公益的な活動を増やすということは、お金を稼げる状態の法人になることを目指していて、共益的な活動は会費で済ませればいいと思うが、コミュニティビジネスの団体を増やしていきたいという思いがあるのか？

〈職員〉

そこまでも見えていない。過去にアンケート調査をしてきたが、数では見えてきているものが肌感では感じきれていない。アウトリーチをする必要はあるという認識はある。別の中間支援団体と連携しながら、小規模団体の組織基盤を強化していく支援を伴走型でしていく動きもある。この動きから、まちなかにどんな公益的な活動があり、どんなことで困っているかを知る機会にもしたいと考えている。

〈専門委員〉

明石にこんなに活動団体があることを知らなかった。昔は、団体側から記事にしてほしいと依頼があったが、今は自分たちで発信できるので活動を掴み切れなくなっている。DM を送って、こちらから取材申込をするようになった。自分たちだけで活動している団体が、公益的な活動をしている団体と出会うことで自分のなかのニーズに気付くことも大事なのではないか？

〈職員〉

確かに、自分たちの活動のなかで社会に役立っていると気付く瞬間・社会性を帯びる瞬間にどう促し、次につなげていくかが大事だと思う。

〈職員〉

例えば、不登校の子がある活動に興味をもち高齢者が多い団体に入って、団体がその子のサードプレイス的な場所になり社会とつながるきっかけになったという事例もある。団体それぞれに強み・公益性はあるからこそ、公益的な活動の視点を育む支援は必要ではないかと考えている。

〈専門委員〉

たまたまそういう子がいたというだけで、そういう子たちを集めるという目的が団体にないのであれば、公益的な活動を設定してしまうことで活動を続けていくことが苦しくなる可能性もある。自分たちだけで活動を続けたいなら、共益的な活動で続けていく道があっても良いと思う。

〈専門委員〉

市民会館で、これまでは無償ボランティアでやってきていたけど、これから次の世代につないでいくには有償じゃないと後任が現れないという声を聞いた。有償にシフトしていきたいけど、お金が絡むと揉め事が起きるから踏み出せない。分野は違えど、この問題は起こりえると思う。

〈職員〉

今年の５月から、ボランティアマッチング制度をスタートした。個人からなにか社会貢献したい

という漠然とした相談や団体の人手不足のニーズはあるものの、うまくつながっていなかった。制度の組み立て時に無償・有償については悩んだところがあるが、現在は明記しておらず有償ボランティアの募集情報も掲載されている。

〈職員〉

相談や問い合わせでは、コミュニティビジネス的な内容も少しずつ増えてきている。

〈専門委員〉

「支援」の事業はあるが、スタッフがプレイヤーとして行う自主事業で一緒にやっていくことがあってもいいのではないか？ボランティアの形に無償性や自己犠牲を他者に求めてしまうケースもある中で、今の時代のボランティア活動のあり方を伝えていくことの役割もあるのではないか？

〈職員〉

有償を条件に設けるべきじゃないかという議論もあったが、一方でボランティア募集を出したら来るのかというとそういうわけではないと思う。ウィズフェスもそうだが、「自分たちの活動を見て！」のスタンスではなく、活動に参加してみたいなと思わせるような心構えを育むことも我々の役割ではないかと感じている。

〈専門委員〉

ステップアップ助成は、最初の一歩でなく、すでに活動している方が次のチャレンジをしたいということも含まれているのか？

〈職員〉

どちらかというと最初の一歩と捉えている。

〈専門委員〉

最初の一歩なら、社会的孤立から抜け出すきっかけにもなり得ると思うのでグッズを買うとかでも良いと思う。ファーストステップは自己実現のためで良いと思うが、助成金制度の原資は税金であることから、申請をする時に「こどものためになるから」など社会性を含んだ言葉づかいで助成金を受けていきましょうというような促しも必要ではないか？長いやり取りは必要になると思うが、助成金にステップアップを設けることがいいのではないか？

〈職員〉

明石市も自治体として助成金を行っており、差別化が必要かと思っている。

〈専門委員〉

男女共同参画センターとして社会課題（生きづらさなど）を学んで踏み出していこうとした時に、多くの場合センターが別々にあるので市民活動のサポートを受けられないことに問題意識がある。

ウィズあかしは３つのセンターが入っていることは強みだと思うが、男女共同参画センターの取り組みで気付きを得て、地域のために活動している団体が存在しているのか？また、人権やダイバーシティなどの取り組みをしている団体が登録するときの活動分野はどれにあたるのか？

〈職員〉

申請時にヒアリングを必須としている。活動分野に関しては、活動の核となるところを聞き、活動を知らない人にも分かりやすくするために絞って選択してもらっている。活動のなかで重要視しているところはどこなのかを丁寧にヒアリングしている。

〈専門委員〉

例えば、当事者の会だとどれにあたるのか？

〈職員〉

他の人にも知ってほしいなら「まなび」、暮らしやすい社会を実現したいなら「くらし」といったように団体の思いで分けられている。

〈専門委員〉

社会課題の解決であれば、社会的な構造の中でうまれた個人の悩みもあると思うので、その悩みと活動分野がつながる方が良いと思うので、何に基づいてなのかが気になった。当事者の会のような団体が登録しようとなった時に、戸惑うかもしれない。

〈職員〉

活動分野については、2017 年に 6 分野を設定したものの、そのままになっていることは課題だと思っている。

〈専門委員〉

前回が男女共同参画、今回が市民活動、次回が生涯学習となっているが、やはり縦割りなのではないか？せっかくひとつの施設なのであれば、ウィズあかしとしての最大のメリットである複合型交流拠点であることを活かし、複合事業を発信するべきではないか？例えば、生涯学習センターの立場で話す機会で、市民活動や男女共同参画のことも話す。さらに、この話す内容は、どの分野の機会でも共通のものである。広く伝えていくことがミッションでもあると思うので、プレゼンページや事業を持っておくことが大事ではないか？

〈職員〉

活動分野のことでいうと、意図的に 6 つにした理由がある。明石は以前、市民活動団体の声が強く、明石に市民活動支援センターが必要だという動きがあった経緯がある。明石の特殊なところは、センター条例は生涯学習センターと男女共同参画センターしかなく、市民活動支援センターは機能として存在していることである。ウィズあかしを始める前は、公益的な社会活動をしている団体が市民活動であり、サークルは市民活動ではないといった見方も一部あり、ちょっと楽しいサークル的な活動は区別の対象となっていた。

しかし、活動の最初のきっかけは、自分の好きなこと楽しいことでいいのではないかとウィズあかしでは考えている。実際、市民活動をしてきている方も興味関心から活動につながっていることもあり、ウィズあかしの登録制度は 2 人からでもいい等ハードルを下げた制度にしている。そのため、一般的な NPO 法人の 20 分野ではなく、市民活動とサークルの垣根をなくすため 6 つの分野にした。結果、サークル系の活動をしている団体のウエイトが増えてきているのが、この 5・6 年である。一方で、アウトリーチができていないため、自分たちで財源確保ができ、地域で積極的に活動している団体とはつながれておらず、公益的な活動への支援が弱い。

また、サークル的な団体も社会的課題は感じていて思いは強いが、助成金を受けることが出来ず活動のはじめの一歩を踏み出せない団体が明石ではまだまだ多いこともある。実際、市の学習支援事業を受託しているのは神戸や大阪の団体である。明石の団体が受託していくためにウィズあかしとしては、公益的な活動団体をどうサポートしていくかという問題意識はある。

〈専門委員〉

育てるという点でいくと、スタートアップ的なところを増やす支援と多少でも稼ぐことができ生業になっていく人を育てるという２本立てが必要ではないか？その支援が出来る可能性はあると思うので、年に１件でもできるとすごい成果になるのではないか？

〈職員〉

子どもが小学生のうちは色々ボランティアをして、その中で１つでも面白いと思ったことを見つけたり、まちなかのことで仕事があったりという状況を、子どもが中学生になった時につくっておきたいといった話を聞いたこともある。明石で活動していく予備軍的な人の関心どころが、そういったところにあると思うので、そのきっかけになる事業展開も大切だと改めて感じている。

〈専門委員〉

話を聞きながら、何のためにその事業をやっているのかを了解しあう・共有することが必要だと痛感している。今年何に注力していくかを見える化し、メリハリをつけるといいのではないか？市民活動をしている方は思いが強いところもあるので、お互いに立ち位置が分かると活動のしやすさやコーディネートにもつながりやすいのではないか？

〈専門委員〉

公益的な活動をしている団体も、全団体がうまく事業が出来ているわけではないと思うので、公益的な活動をしている団体に支援をしていくことで、その姿を見て私益・共益的な団体も影響があると思う。団体調査の時に、アンケート調査をするものいいと思うが、ＮＰＯなどはホームページで規模などが見られるので、情報を整理したうえで進める方がいいのではないか？

〈職員〉

公益的な活動に向かっていきたいが踏み出せない団体に対しての支援・スキル・機会はいくつかあると思う。悩んでいるところは、公益的な活動をどう増やしていくのか・その団体の現状や支援策・どの辺りにアプローチしていくのがいいのかというところである。アウトリーチしていきたいというのはあるが、そのなかでどんな戦略・ステップがあるといいのかを悩んでいる。

〈専門委員〉

例えば、フェスやフォーラムのときに、団体自身が立ち位置や目指したい方向をお互いに出し合って確認し合える場が必要かもしれない。それが出来ると、登録団体の現状が分かり、見える化ができるのではないか？

〈専門委員〉

例えば、モデルケースが見えると、将来像が描きやすいと思う。ケーススタディ的にホームページや団体に配布するものに掲載するといいのではないか？

〈職員〉

2014 年に COMiSO が作成した、市内の市民活動団体を取材し紹介した冊子『明活』がそれにあたるかもしれない。

〈職員〉

確かに明活は、市民活動＝公益的な活動であるところを、カッコよく憧れになるようにデザインにこだわったり、活動の背景を取材したりしている。

〈職員〉

明活は、市民活動がものすごくハードルが高いものだと認知されていたものを、もうちょっとゆるく広くてもいいのではないかを見せることを狙って作成した。この明活をきっかけに、生涯学習と市民活動が重なるところが多いと気付くきっかけになった。

一方で、私たちが、団体の立ち位置を把握するために、市民活動の活動・運営のステップを整理したステップアップマップを作成してみたが、うまく活用できていない。

〈職員〉

ステップアップマップを作成するときに、ステップやチャートなど様々なパターンがあると議論していたが、うまくチャート化がしきれなかった。

〈専門委員〉

例えば、伊丹市は文化芸術ビジョンの策定中で、ビジョンができたところで伝えていくことが大切だという話になっている。熊本市が総合計画を作り変えるときに、美術展で総合計画をテーマにやっている。ビジョンの実現に向けて、それぞれがやってみてどうやったかを数年に一回できる機会をつくろうとしている。他に、明石の声を拾えていないことについては、田中元子さんのふるまいコーヒーではないが、こども食堂をしているところで読み聞かせをやるといった別の役割のコンテンツを作るような取り組みはいいのではないか？

〈職員〉

スタッフ自身がプレイヤーになることが重要だと考えていて、ウィズあかしとまちづくりの連動事業として「ローカルグッド・あかし」を進めようとしている。スタッフがまちに出て行ってヒアリングすることの面白さがあり、まちの面白さを発見できる個人活動の始め方のケースにもなり得る機会だと考えている。

〈専門委員〉

最初の方でせっかくの複合型なのに、担当が縦割りになってないかという話があったかと思うが、ウィズあかしの登録団体を地縁団体に紹介するようなコーディネートはしているのか？

〈職員〉

地域に出たスタッフが紹介を頼まれて、ウィズあかし登録メンバーズを紹介することはある。

〈専門委員〉

ホームページに登録団体の情報があると思うが、この団体と話がしたいという問い合わせはあるのか？

〈職員〉

数としては結構ある。例えば、娘に弓道を体験させたいとウィズあかしに問い合わせてくることや、連絡先を公開している団体には直接問い合わせていることもある。

〈職員〉

場合によっては、登録メンバーズの紹介だけでなく、該当する団体がいないときは中学校コミセンのサークルの一覧から紹介することもある。

〈職員〉

登録制度については、団体を知るために思いなどをヒアリングすることを意識している。また、

一度登録したら終わりではなく、年度ごとに更新していることで実態のない団体はいない。なので、コーディネートのしやすさはある。

〈専門委員〉

アウトリーチの数や男女共同参画から登録した数を出せても面白いかもしれない。現状、登録者数を増やすストーリーしかないようにみえるので、自分たちのゴールにあった評価指標を作ったほうがいいかもしれない。

〈専門委員〉

以前、中学コミセンの活性化がミッションとしてあると聞いたが、アウトリーチの狙いもそこにあるのか？

〈職員〉

ミッションとしてあるのは、生涯学習をどう広げていくかである。実際、中学校コミセンを通じてアウトリーチしていくことを狙ったこともある。スタッフが出ていって出張相談のようなアクションをして、市民活動の活性化にもつなげていくことも考えていた。

〈専門委員〉

コミュニティスクールに力が入っている。明石には、小学校・中学校にコミセンがあるのでうまく連携できると面白いと思う。

5．閉会のあいさつ

〈事務局〉

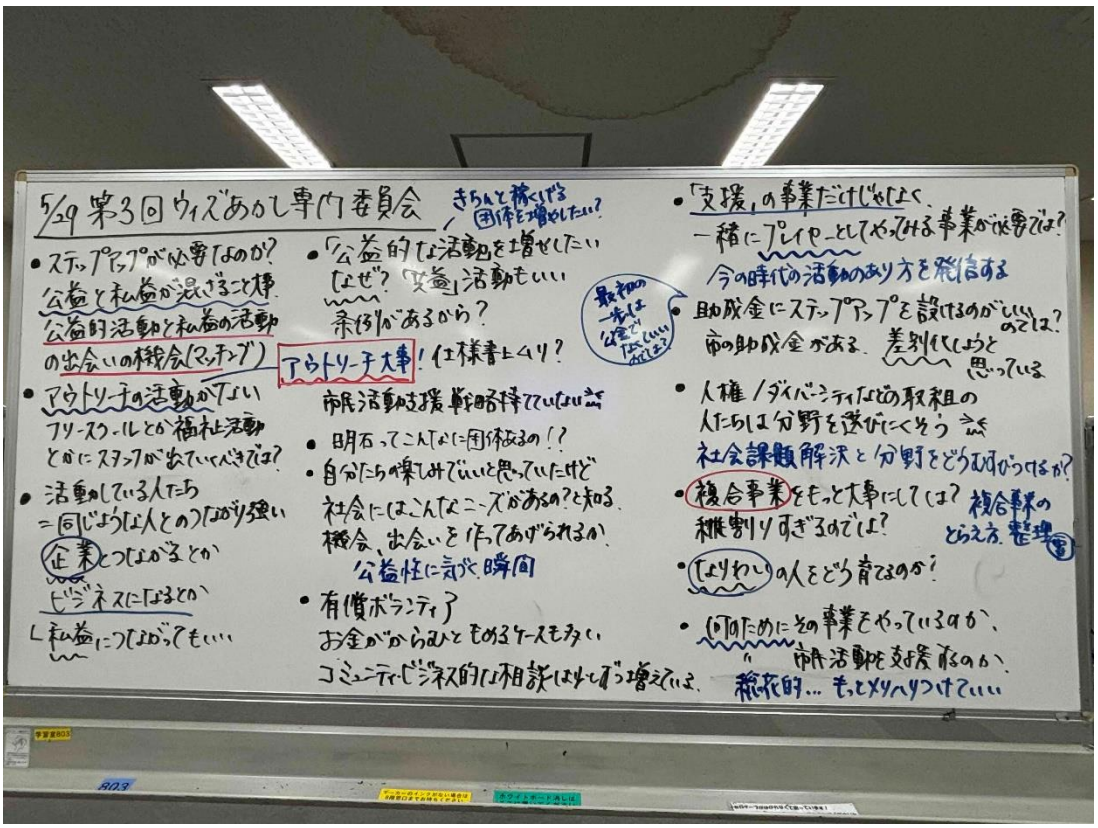
本日は、たくさんのご意見ありがとうございました。先ほどお話しした通り、明石の市民活動支援はウィズあかしができるまで難しい状況もあり、その中でウィズあかしでは比較的ハードルの低いところからの市民活動支援を進めてきたが、改めて市民活動支援とはなにかを問い直し、次のステージに向かっていく模索をしている段階での今日の場だった。今日お聞きしていて、アウトリーチをどうしていくのかが重要だとある程度認識はしていたが、改めて重要だと確認できた。また、支援だけではなく、プレイヤーとして関わる機会をどうつくっていくのかというのは、ローカルグッドのような実験的な事業を進めていくうえで必要だと再認識できた。

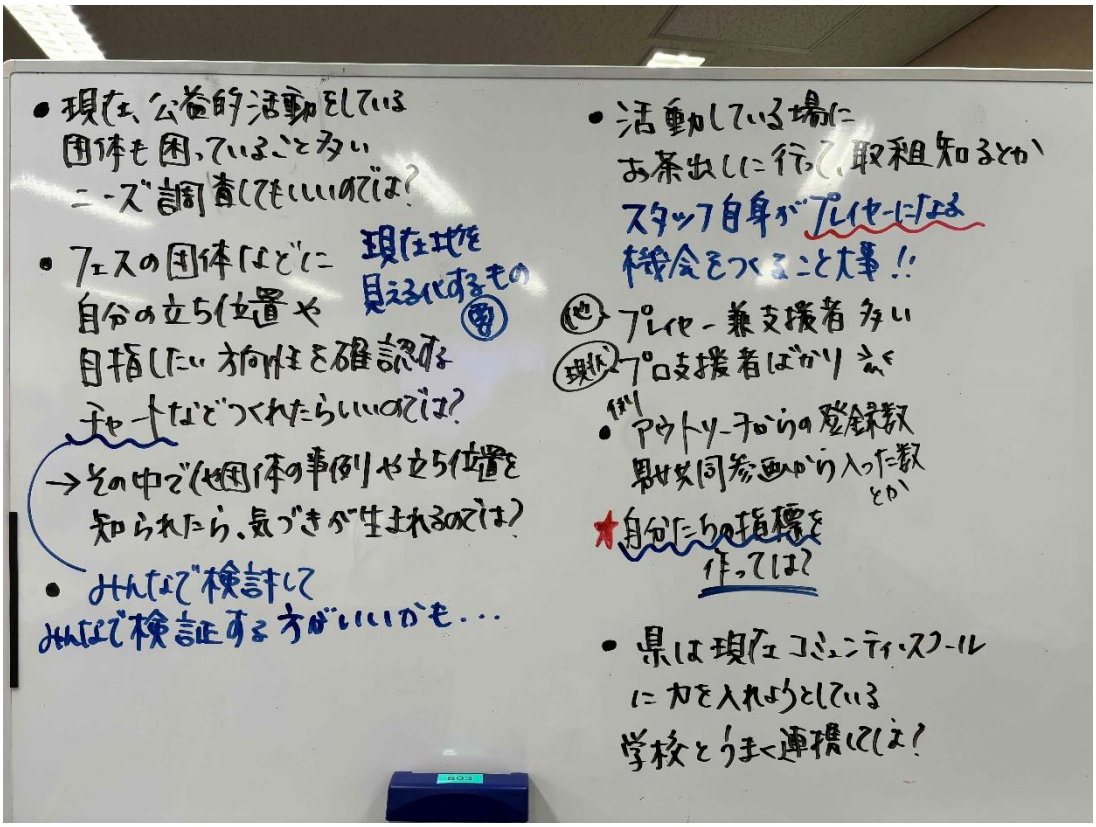
他にも、自分たちが大事にしたい視点を指標にまですることができていないところだったので、自分たちならではの指標をどうつくるのかという点では、貴重な意見をたくさんいただいて具体的に市民活動を今年度進めていくための気付きや背中を押してもらえた機会になったと思う。

次回は、生涯学習がテーマ。生涯学習の概念が広くて、私たちがやる生涯学習は何なのかが一番難しいと感じているので、そんな迷いも正直にお話しさせていただきながら今日のように意見交換ができればと思う。

複合型の事業を出していってはというお話もあったが、生涯学習こそ複合の部分でお伝えしないといけないことが色々とあると思っている。先ほどのコミュニティスクールは、地域支援では関わりが多いがウィズあかしの生涯学習としては捉えきれていないところもある。色々やっているが故に難しいところもあるので、そんなところも次回ご意見をいただき、ウィズあかしとして捉えるべきところが見えたらいいなと思う。

【意見交換まとめ】


5/29 第3回ウィズあかし専門委員会
きちんと稼ぐ団体を増やしたい?
・ステップアップが必要なのか?
公益と私益が混ざること大事
公益的活動と私益の活動の出会いの機会(マッチング)
・アウトリーチの活動がない
フリースクールとか福祉活動とかにスタッフが出ていくべきでは?
・活動している人たち
=同じような人とのつながり強い
企業とつながるとか
ビジネスになるとか
私益につながってもいい
・「公益的な活動を増やしたい
なぜ? 「公益」活動もいい
条例があるから?
アウトリーチ大事! 仕様書上ムリ?
市民活動支援戦略特区
・明石ってこんなに団体あるの!?
・自分たちが楽しみでいいと思っていたけど
社会にはこんなニーズがあるの?と知る
機会、出会いを作ってあげられるか
公益性に気づく瞬間
・有償ボランティア
お金がからみとめるケースも多い
コミュニティビジネス的な相談は少しずつ増えている
最初の一歩は公益でいいんじゃない?
・「支援」の事業だけじゃなく
一緒にプレイヤーとしてやってみる事業が必要では?
今の時代の活動のあり方を発信する
・助成金にステップアップを設けるのがいいのでは?
市の助成金がある。差別化しようと思っている
・人権/ダイバーシティなどの取組の
人たちは分野を選びにくそう
社会課題解決と分野をどう結びつけるか?
・複合事業をもっと大事にしては?
縦割りすぎるのでは?
複合事業のとらえ方、整理
・「よりわし」の人をどう育てるのか?
・何のためにその事業をやっているのか、
市民活動を支援するのか、
総花的… もっとメリハリつけていい


・現在、公益的活動をしている
団体も困っていること多い
ニーズ調査してもいいのでは?
・フェスの団体などに
自分の立ち位置や
目指したい方向性を確認する
チャートなどつくれたらいいのでは?
現在地を見える化するもの
→その中で他団体の事例や立ち位置を
知られたら、気づきが生まれるのでは?
・みんなで検討して
みんなで検証する方がいいかも…
・活動している場に
お茶出しに行って、取組知るとか
スタッフ自身がプレイヤーになる
機会をつくること大事!!
昔 プレイヤー兼支援者 多い
現代 プロ支援者ばかり 多く
・例 アウトリーチからの登録数
累計共同参画から入った数
とか
★自分たちの指標を
作っては?
・県は現在コミュニティスクール
に力を入れようとしている
学校とうまく連携してこそ!